

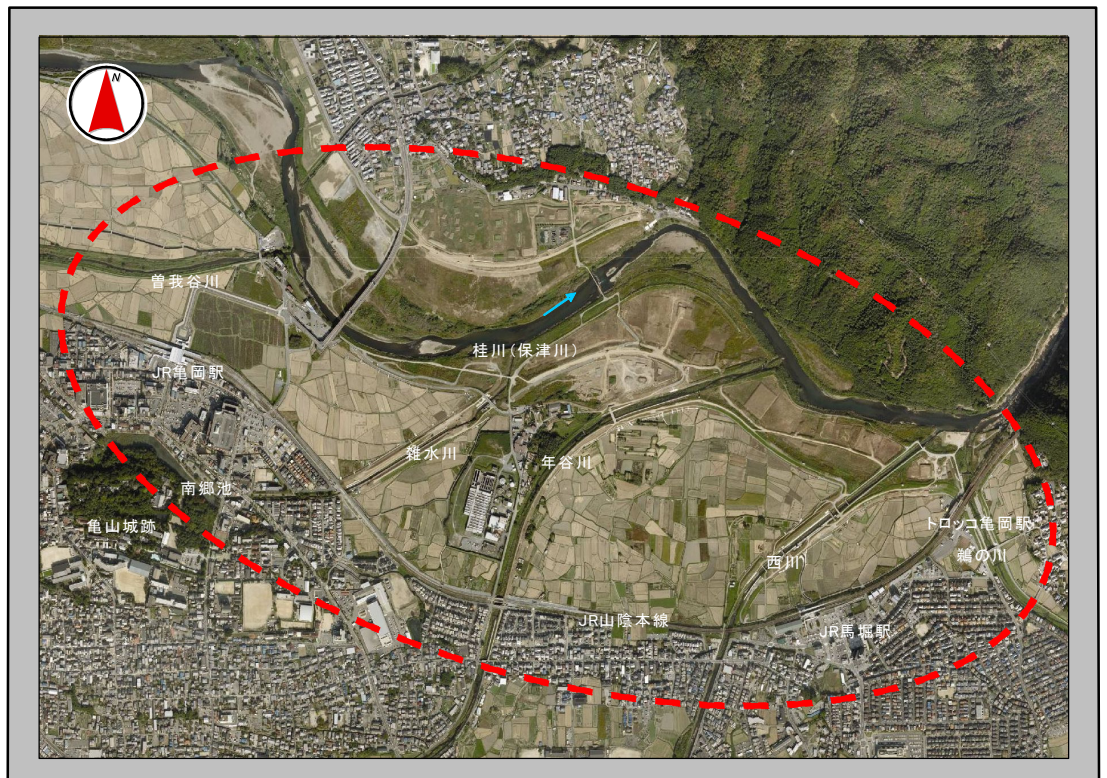
第4章 かわまちづくりの基本方針

4.1 対象区域

保津川かわまちづくり計画は、桂川河川改修事業の保津工区と流入支川の曾我谷川、雑水川、年谷川、西川、鶺の川、並びに、その周辺地域一帯を対象とする。

- 計画対象区域
- ・桂川（保津川） 約29k～約31k
 - ・流入支川（曾我谷川、雑水川、年谷川、西川、鶺の川）
 - ・保津川、流入支川の周辺地域一帯

■対象区域図



■広域図



4.2 整備の目標

1) 保津川かわまちづくりの方向性

保津川の特性と亀岡市の特性、並びに、かわまちづくりの対象区域の特性は、以下のように整理できる。「保津川かわまちづくり」にあたっては、こうした「かわ」と「まち」が持つ個性や背景などの特性をしっかりと捉え、それらを活かし、さらに、「かわ」と「まち」の持つ魅力を高めつつ、有効に活かして行くことが求められる。特に、対象区域は亀岡市の2大観光資源を結ぶ動線上に位置するとともに、貴重種を含む多くの生物の生息・生育空間となっており、こうした機能を保全・向上させていくことが求められている。

『かわ』と『まち』の特性

『かわ』の特性

- 古くから今日まで地域の暮らしと発展を支え続けてきた
(農業利水、筏流し、保津川開削、舟運)
- 度重なる水害との戦いの歴史の上に今日がある
(内膳堤防、日吉ダム、河川改修)
- 良好な水質とアユモドキに代表される豊かな自然環境を有する
(多種多様な動植物)
- まちなかの貴重なオープンスペースとして、様々な河川利用が行われている
(保津川下り、運動公園、花火大会、地域のイベント、カヌー等々)

『まち』の特性

- 京阪神に近く、快適で暮らしやすき住宅都市の魅力
- 保津川沿川は広大な農地が広がる田園都市の魅力
- 城下町としての風情を残し、多くの歴史的資源を有する歴史文化都市の魅力
- 新しいまちづくり等の魅力
(駅北地区区画整理事業、水端農園プラン、JR山陰本線複線化)

『対象区域』の特性

- 保津川右岸は保津川下りとトロッコ列車の2大観光資源を結ぶ観光軸
- 右岸の中心市街地地域と左岸の田園的土地利用地域の間に位置
- 旧城下町、中心市街地、田園集落の3つの顔に接する。

2) 整備の目標

以上までに整理・検討した川の持つ魅力や、まちの持つ特性を踏まえ、「保津川かわまちづくり」の目指すべき目標として次の3点を設定する。

目標1：『かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり』

桂川は「保津川」という呼び名で親しまれる一方で、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返すなど、沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきたところであるが、治水対策やまちづくりが進展してきた今、改めてかわとまちのより良い関わりを結んでいくための「かわまちづくり」をすすめる。

目標2：『かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり』

保津川の流れる亀岡地域は京阪神地域からのアクセスに優れるとともに水と緑の豊かな自然や、湯ノ花温泉、トロッコ列車、保津川下りをはじめとする多くの観光資源があり、訪れる人々も年間220万人にのぼっている。これらの資源と連携しつつ、川を活かしたさらなるまちの魅力の創出を図り、にぎわいのある「かわまちづくり」を進める。

目標3：『かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり』

保津川は、古くから沿川の田畑を潤し、保津峡開削によって多くの物資を丹波から京都に運ぶ重要な役割を担ってきた。今日では、沿川の広大な農地への用水の供給とともに、都市の中の貴重な水と緑の自然空間として、また、多くの生き物の生息環境として重要な役割を果たしている。このような保津川の恵まれた自然や、沿川の優れた歴史文化にふれあうことのできる「かわまちづくり」を進める。

4.3 整備の方針

「保津川かわまちづくり」の目指すべき目標を実現するための具体的な整備の方針を3つの目標を柱にして次の通り設定した。

